

所願満足（仏さまの願いを自らの願いに）

法華經方便品第二 ほうげんほん

がほんりゆうせいがん

我本立誓願

よくりよういつさいしゅう

欲今一切衆

によがとうむい

如我当無異

によがしゃくしよかん

如我昔所願

こんじやいまんぞく

今者已満足

もんぼうかんぎさん

聞法歡喜讚

ないしほついらごん

乃至発一言

そくいいくよう

則為已供養

いつさいさんぜぶつ

一切三世仏

われもとせいがん

我本誓願を立て、一切の

しゅう

衆をして、我が如く等し

こと

くして異なることなから

ほつ

しめんと欲しき、我が昔

の所願の如き、今すでに

満足しぬ。

かんき

法を聞いて歡喜し讚め

ないしいらごん

て、乃至一言をも発せ

いっさい

ば、則ちこれすでに一切

さんぜ

三世の佛を供養するな

り。

大意◆この經文は方便品の二つの部分をつなげたものです。

前半五行でお釈迦さまは「一切衆生を自分と同じ仏道に入れようという誓願はすでに成就した」と述べられています。

これは、すべての衆生を救済するという法華經の教えによって成就されることを意味します。後半のお言葉では「その法華經の教えを聞いて歡喜し、その教の言葉を語るならば、それは全ての佛たちに供養することに「なる」と述べられています。寫經をすることも佛への供養になるのです。